



285

若竹だよい



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

- 【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう
 ③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

- 法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】

脳内扁桃体

—やっぱり自然の中がいい—

園長 野田大燈

科学誌「ネイチャー」系のサイトに掲載された記事に【人間は森で暮らした方が幸福になれる】と言うドイツからの研究報告がありました。

ドイツにあるマックス・プランク研究所が発表した研究結果だそうです。

都会で暮らす人々は田舎で生活する人々よりも高いストレスに曝され、心的な病気に罹る率も高いことは以前の研究でも判っていたようですが、今回の調査で自然の近くで住む人を対象に、周囲の環境が脳内の扁桃体 (AMYGDALA) に与える影響を調査したそうです。

扁桃体は人間の情動を司る部分であり、扁桃体を健康に保つことがストレス耐性を高めると言われています。

その結果、森の近くに住む人々は健康的な扁桃体を保っており、うつ状態を上手くコントロール出来ていることが判ったそうです。

また先日は「家畜など動物と共生するライフスタイルが必要」と発表したミュンヘン大学のムティアウス博士らが、アメリカのアーミツシュを調査するとアレルギーの人がほとんどいない事が判ったそうです。

幼少時から家畜と触れ合う生活がアレルギーを抑えていることが判ったそうです。

ドイツでの調査では血液を調べたところ血中の制御性T細胞が35%も多いことが判明したそうです。

自然の反対は不自然です。自然の中に誕生した人間は文明と言う名の許に、自然を破壊してきました。

その破壊の副作用として様々な社会現象が人間自身を圧迫しているように思えます。

それは意識しない知らず知らずの内に人間として不自然な生活を余儀なくされているからではないでしょうか。

学園で生活している園生は純粋で感受性が高いと思います。

そのために、一般の人々が感受しない繊細なことに反応してしまうのです。

マックス・プランク研究所が突き止めた脳内扁桃体の働きが歪められるのは自然との関わりが希薄になる為であり、動物との触れ合いがないなどと同じことだと思いました。

若竹学園は大自然の中でヤギに触れ合ったり、四季を身体全体で味わっていますので健康になって当然だと思いました。 —了—

月見茶会

9 月 30 日、夕方から喝破道場が開催した月見茶会がありました。園生の有志で太鼓演奏の披露、茶会でのお点前、お運びを手伝うため、前々から何度も練習をしていました。

当日、最初の園生の出番は太鼓演奏の披露でした。練習の時よりもさらに息ピッタリな演奏を見事に披露し、お客さんからは盛大な拍手をいただきました。

毎日の練習は大変だったけど本番ではうまくできたので良かったです。(中 2 女子)



すごく楽しく演奏できました。(中 2 女子)

そして、茶会のお点前・お運びをしました。初めは緊張していましたが、いざ茶会が始まると練習通り落ち着いてお点前・お運びができていました。

お点前、お運びをしている園生以外の子どもは、お蕎麦、お茶と和菓子いただきました。具たくさんおいしいお蕎麦で、あっという間に完食している園生もいました。



普段経験できない緊張感のある時間を過ごすことができました。

お運びでいろんな人にお茶をお届けできて、初めてだったけど失敗もせず大成功でした。(中 2 男子)



月見茶会が今年で最後なので参加できてよかったです。(中 1 女子)

増築棟見学

10 月 5 日に、工事真っ最中の増築棟の見学をしました。どんなきれいな部屋ができるのだろうと期待に胸を膨らませながら、未完成の建物の中を回って行きました。



増築棟の屋上は、運動のできる開放的なスペースが作られる予定です。そこで空を見上げながら、「夜は天体観測ができるね。」という声も聞こえてきました。ぜひ完成した時には、山の上の満天の星空をみんなで鑑賞したいです。

若竹・青峰学級だより

高校受験は団体戦

2 学期も半ばを迎え、中学校 3 年生の補充学習を開始しました。昨年度、卒業生は見事に進路を切り開き、上級学校へ進学していきました。そんな姿に憧れを抱くのでしょうか、ずいぶん早い時期から生徒の高校進学への意識が高まっています。

先日、体験入学に参加した生



徒は、そこで体験し、見聞きしたことを熱く語ってくれました。

また、他の学年の生徒にも、高等学校案内パンフレットを見たり、教師に高校入試について質問したりする姿が見られるようになりました。これまであまり見られなかった光景です。

生徒の学習意欲が高まる機会には、3つあると言われてしています。

- ①満足のいく学習成績をおさめたとき
- ②進みたい上級学校が定まったとき
- ③就きたい職業が見つかったとき

今まさに生徒たちは、②の時期を迎

え、一生懸命学習に取り組んでいます。私立高校受験まで二ヶ月あまり。家庭・原籍校・関係諸機関との連携を密にするとともに若竹・青峰学級でも生徒・教職員が一丸となって夢の実現に一步一步進んでいきたいと思ひます。

ともに学ぶ

総合的な学習の時間にハンセン病について学びました。

DVD を視聴し、国の誤った政策や周りの人々の



偏見によって差別し続けられた元患者の方々の苦しみや絶望的な状況の中でもたくましく生きている方々の素晴らしさを学びました。

児童・生徒らは資料を基に、自分の考えをもち、友達に自分の考えを伝えたり、友達の考えに耳を傾けたりして、より考えを深めることができました。

日頃、若竹学園での共同生活において、話し合いを通して生活ルールを作っていく経験が、この学習でも大いに役立ったと思ひます。

食育

今回のメニューは白玉団子です。おやつ
の時間に各グループに分かれて作りました。
初めて団子を作る園生は最初はどうすれば
いいのか分からない所もあり、焦ることに
なりましたが、何度も食育をしてきた学園の
先輩園生や職員に教えてもらいながら作る
ことが出来ていました。おやつ作りが手慣
れている園生は、職員に聞いたりせずテキ
パキと作ってしまう手練れの園生もいまし
た。



泥団子作り

今年の 10 月は秋雨前線の影響で雨が続き、
子どもたちも外に遊びに行けない日が続いま
した。そんな中でも子どもたちは工夫して
遊びを見つけて過ごしています。雨水で土
が柔らかくなった園庭では、泥団子作りが
行われていました。とてもきれいな丸い泥
団子を嬉しそうに見せてきてくれました。



10 月の行事



- 14日 図書館学習
- 19日 買物学習
- 21日 食育



在籍人数 平成 29 年 10 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	4	1	5
	中学生	5	4	9
	その他	1	0	1
	計	10	5	15
女 子	小学生	0	0	0
	中学生	5	1	6
	その他	0	0	0
	計	5	1	6
合計		15	6	21

編集後記

秋も一段と深まり肌寒い日が続いています。
寒さに負けず、子ども達と一緒に毎日元気
に過ごしたいと思います。

児童指導員 山本瞳

第 285 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈